

「西日本生産性会議2019」福岡市で開催

中部・関西・四国・九州・中国の5生産性本部が主催する今年の「西日本生産性会議」は、7月25日(木)・26日(金)の2日間、福岡市のホテルニューオータニ博多で開催しました。第47回となる今回は九州生産性本部がホスト本部を務め、「新たな価値の創造と生産性向上」を統一テーマに設定。西日本各地から653名(うち中国生産性本部から78名)の皆様にご参加いただきました。

初めにホスト本部の九州生産性本部 会長の酒見俊夫氏が「今こそ我々産業界労使は、人間性の尊重を基本理念に労働者1人当たりの付加価値を高め、その成果をイノベーションや消費に循環させ、付加価値の増大が連鎖していくような生産性運動に取り組んでいかなければならない」と挨拶し、基調講演、特別講演に移りました。

基調講演では、日本生産性本部 会長の茂木友三郎氏が「日本の生産性改革に向けて」と題して講演。労働力人口の減少が始まっている中、経済成長を実現していくためには「付加価値を高め、サービス産業の生産性を向上させ、経済の新陳代謝を進めるといった課題に取り組み、生産性を向上させていくことが必要」と述べられました。

特別講演では、横浜 DeNA ランニングクラブ総監督/(公財)日本陸上競技連盟 理事の瀬古利彦氏が「心で走る～東京五輪マラソン復活への道～」と題して講演。(講演内容は、次号で紹介させていただく予定です)

2日目の第1討議では、「グローバル市場で勝ち抜く独自経営」をテーマに、(株)英田エンジニアリング 代表取締役社長の万殿貴志氏、不二製油グループ本社(株) 代表取締役社長の清水洋史氏の2氏がパネリストとして登壇。中京大学経営学部 教授の永石信氏が進行役と



なり、それぞれの経営に対する思いとそのグローバル戦略について討議が行われました。

第2討議では、「サービス革新による付加価値創造」をテーマに、(株)スーパー・コート 代表取締役の山本健策氏、つばめ自動車(株) 代表取締役社長の天野清美氏の2氏がパネリストとして登壇。シンクタンク・ソフィアバンク 代表の藤沢久美氏が進行役となり、それぞれの経営に対する思いや生産性向上に向けた具体的な事例について討議が行われました。

第3討議では、当本部の清水希茂会長が座長を務め、カゴメ(株) 常務執行役員 CHO の有沢正人氏、サントリーホールディングス(株) 人事部部長兼ダイバーシティ推進室長の千大輔氏、トヨタ自動車労働組合 副執行委員長の光田篤史氏の3氏がパネリストとして登壇。相模女子大学客員教授/少子化ジャーナリスト・作家の白河桃子氏が進行役となり、「生産性向上を実現するダイバーシティマネジメント」をテーマに、ダイバーシティマネジメントの推進と労使の役割について討議が行われ、2日間の会議を締めくくりました。

次回(第48回)は中部生産性本部がホスト本部となり、2020年7月16日(木)・17日(金)に名古屋市で開催します。来年も多くの皆様のご参加をお待ちしております。